

John  
Burroughs

といふ名は恐らく日本には聞えては居りませんが、是は現代の米國にあればだけの自然趣味を鼓吹した第一人者と認められてゐる老著作家の名で彼は亦簡易生活の實行者です。今年其第七十八回の誕生日が、多くの人に依て記憶せられ祝賀せられたといふことが雑誌に見えて居りました。

ホドソン沿岸山間の一小村に居を卜して、最單純な、極めて戸外的な生活をしてゐるといふ其老夫婦の寫眞を見ては、夫れがあゝ物質の富の盛んな米國に、少くとも一方面的代表者と謠はれて居る人であらうとは誰しも思ひ當りませむ。其倔強な体軀、逞ましい手足、蓬髮粗服、一見農夫に過ぎませむが、寄る年波を湛へた廣い額と、自然に懷むだ深い眼とが、彼の常人でない事を知らせて居ます。

農家に生れた John Burroughs は、幼い時から自然を友に育つたのでせうが、中年には村の公職に携はつてゐたこともありました。其永年の觀察と、廣い科學的智識とより成る自然憧憬は、彼に極端な戸外生活をなさしめ、又自然は如何に親しみ易いものか

を述べさせました。「ウエーク、ロビン」以下多くの著書があるといふことです。

米國は曩に Thoreau の如き自然詩人を出しましたが、Thoreau は本來が世離れた隱者の生活をした人で、決して他人と共に自然に交ることをしませむでした。従つて其自然觀も萬物に對して驚嘆の眼をあげるといふ立場で、日々に新なる發見をしては、是を樂しむだ人です。John Burroughs は、其實生活に於て隣人と親む如くに、自然物に對しても親交をもつて居り、人間は萬物と親しみ得可きものであつて、戸外生活に依て自然に交はる可きを説いて居ます。

此の様に七十餘年を簡易生活に過した彼は、高齡に達して愈々長時間の勞働に堪へ、今も尙其穩健な筆に依つて自然憧憬を綴つて居るといふ事です。人世の事は益々繁錯複雑を極めて遂に止る處を知らずといふ様な今日、彼が如き人を見るのは眞に異數であると同時に、大に意を強うするに足ることと思はれます。

### 少女劇

Lewis Carroll の著 Alice in Wonderland

が、世界的に名高い夢物語の御伽話であることは、皆様御承知の通りですが、今度それが脚色せられて、紐育のある劇場で演せられました讀んで無邪氣な面白い場面に富んだ此話が、劇となつて悪からう等は無く、脚色者の上手な抄略と、演者の巧みな表情とに依つて、多大の成功を見たといふことです。話は無論夢物語りの、筋も無し統一も無いものですが、子供の夢が馳るに任せての幻想をつないだもの、空に消えるチェンシャの猫だの、歌留多の中から抜け出した王様や女王、氣違兎に氣長の帽子屋と、有らゆる者の無心な活動の中に、悠揚迫らぬ温みと、品よい軽い滑稽とを含めたのが、子供ならぬ吾々をさへ少からず興がらせます。子供の本の拂底な今日、何かと云へば感情をそつり、やすい涙を誘ふを以て事とする様な讀物ばかりの増して來る我國で、三流四流の人情物に没頭してゐる子供等に、此種のを讀せたらと思はずには居られません。

### 婦人と

### 平和

婦人は其天賦により天職により、絶對戰爭に反するもの、婦人をして社會國家に有力ならしむれば、期せずして世界の平和は確定せられむ、とは曩に南阿の先覺者シュライナー夫人が其著「婦人と勞働」に極言した所で、又婦人參政權論者が證據の一とする所と察せられますが、今度歐洲戰の起つて後少時、是等の主張を根據として、婦人平和會議なるものを起さうとの説が各國婦人の間に起りました。ハンガリアの一人婦人は主唱者となつて檄を傳へ、四月廿八、九三十日の三日を期して和蘭ヘーグに大會を催す可きを豫告しました。扱は婦人の活動よ、彼等は歴史を作る可きかと、世界は大なる望を屬して會期の來るを待ちました。然し期日は來り、期日は去つても結果の見る可きものは起りません。或は其會合の餘りに漠然としてゐた爲、又其決定案なるものが餘りに遠大で實行を許さざる爲等の理由で、現局の上に何の反響をも起さなかつたのかも知れませむ。殊に會長の手に成る報告書の類が、感情に馳せて事の大小を亂つたかの觀があるので、兎角の苦言を呈するも

のさへもありません。兎に角に、切角起つた婦人の運動が豫期の功果の幾分をも收め得なかつたことは、限りなく遺憾に思はれます。婦人活動の範圍は是より益々擴大せられることせう。

### 薦學家と

### 日本文學

近日内の一、二書店に瀟洒たる釘装で牛津から出版になつた英譯の日本文學を御覽になつた方もありません。右譯者は英人ポーター氏といつて「嘗ては造船家でありました。其建造の船に乗つて世界を廻つた途次、日本に立寄つて其風物を愛したのと、又濠洲メルボルの圖書館に蒐集せられた日本文學物を目撃して興を起したのが動機となつて、爾來幾年かは職業の傍ら、後には遂に其職を捨て、専心日語日文の研究に勵み、牛津の圖書館に籠つて多年を費した結果、已に四種の譯書が出来ました、第一に出版したのは芭蕉以下各俳人の名句集で、日人の手になつた挿繪を入れたもの、至難事と思はれる俳語の譯を可成りに仕終ふせた手際と其勞苦とは確に稱讚に價すると思ひます。勿論多數の句の中には、感想を異にする外人の解釋を許さない處もあり、語類語法の

相異の爲に譯出し得ないものもあります爲に、日本人が見て遺憾とする所は少くありません。

續いては百人一首、土佐日記、徒然草、何れも多年苦心の結果に成つたもので、牛津大學出版部は學界の爲に其出版を引受けました。現に譯者は昨年來日本に在任親しく諸般の觀察研究に當つて居られますから、遠からず他の著作を見る事が出来ませう。其譯本の英文書名は次の如くに記慮します。

“A Year of Japanese Epigrams.”

“Hundred Verses from Old Japan.”

“Tosa Diary.”

“the Miscellany of a Japanese Priest.”

## 研究

### 次 目

賀茂祭に就きて

(文 科 一 部 四 年)